

# 経済学分野の参照基準

愛知学院大学  
多和田 眞

2013年6月24日

## 1. 経済学の学問としての目的

経済学を学ぶ目的: 精神的・物質的に豊かな経済  
社会の実現を目指す。

物質的に豊か・・・希少な資源の効率的配分

伝統的には一般均衡分析で説明する。

近年では戦略的行動に対してインセンティブメカニズムによる説明

精神的に豊か・・・他人への思いやり、社会的弱者に対する理解、所得分配の問題

行動経済学、社会選択論、厚生経済学

## 2. 経済学で扱う範囲

資本主義経済を前提とする。

私有財産制と議会民主制

基礎科目・・・ミクロ経済学、マクロ経済学

応用基礎科目・・・公共経済学、国際経済学、金融論

分析方法・・・統計学、経済数学、

現代の経済社会のアイデンティティーの理解のため・・・経済史、経済学説史

## 3. 経済学分野に固有の特性

モデル分析・・・現実の統計データによるモデルの検証

他の社会科学分野と比べて学問体系が標準化されており、科学的分析方法が確立されている。ただし自然科学の分野に比べると、人間を扱うための困難が伴う。

#### 4. 経済学を学ぶにあたって 前提となる知識

高等学校卒業までに習得すべき学力……入学  
試験に関係

1変数での微分と積分、統計の基礎、現代  
社会、(日本史、世界史)

(現代国語と英語は分野を問わず必要)

#### 5. 経済学の理解を深める上での 関連分野の科目

経営学、会計学、心理学、社会学、法学、  
環境学、都市工学等、各自の専門分野に  
合わせて組み合わせしていく。

## 6. 経済学の教育内容

モデル分析による理論と現実の関係  
モデル分析の有用性と限界の認識  
様々な学説への対応

基礎科目(ミクロ・マクロ)、応用基礎科目は  
テキスト化された共通の内容を中心とする。

## 7. 学生の学力水準に合わせた 教育方法

予備授業や補講の導入・・・コンピュータ解析、数学の基礎、語学教育

クラス分け・・・学力別、目的別(地域の企業への就職希望者、国内の大企業や国家公務員志望学生、大学院や国際機関への就職希望者)クラス分けの方法、卒業証書の区別

分野別のコース制・・・理論経済学コース、公共政策コース、国際経済コース、ファイナンスコース等

## 8. 授業形態(1)

講義形態・・・90分授業15回が妥当かどうか？  
90分授業12回でそのうち2回は試験、90分  
授業15回なら、60分を講義で、30分を練習  
問題を解く時間や、ディスカッションの時間に  
当てる。毎週90分講義と60分のチュートリ  
アルの組み合わせで10回。講義にはアシス  
タントが受講生の数に応じて必要(基礎科目  
20人に一人、応用科目50人に一人の  
割合？)

## 9. 授業形態(2)

演習・卒論

フィールドワーク・・・企業見学や実習、海外学習を  
講義の中に取り入れる。

卒業要件としての講義の取得単位数・・・現状  
は多すぎる。1週間に10コマ以下の受講が  
望ましいのでは？(教員に対する学生数の割合  
も小さくできる。)教員の側のテーチング・  
デューティーも1週5コマ(大学院を含めて)以内。

卒業証書・・・達成度によってランク付けをする。

## 10. 学生が期待する経済学教育

大学の現状……日本の経済学部の数  
は過剰？大半は経済の専門的知識を必要と  
しない職に就く。……大半の経済学部学生は  
経済の一般常識と社会常識を身につけて  
卒業していく。職業柄必要とする簿記や  
会計等実用性の高い知識や資格試験に関連  
する知識は、専門学校で別に学んでいる。  
大学のひとつの方向としての専門学校化？

## 11. 大学教育のための高等学校や 社会との連携

大学受験科目の統一を図ることで、高等学校で  
の教育科目を明確にする。

経済学部卒業生に社会（特に民間企業）  
が期待するものは現状では経済の専門知識  
よりもコミュニケーション能力。企業の冠講座  
や社会連携講義の積極的活用。

## 12. 学生が身につけることを 期待される能力(専門的能力)

生活者としての経済の一般的知識

一般職業人として職場で常識的に必要とする  
知識

経済学を専門とする職(政策担当者、企業の  
調査部門、シンクタンクの研究員)で必要と  
される分析力や応用力を必要とする知識

研究機関の研究職を目指して大学院に進学  
しようとする場合の知識

## 13. 学生が身につけることを 期待される能力(ジェネリックスキル)

総合的な判断能力

理論的な思考能力

複雑な現象における本質の抽出能力